

各論 6

【各論 6】

北海道での取り組み

(在宅クリニックから始まった広域の医療的
ケア児支援ネットワーク)

事業の概要

(事業 HP より) 日常的に高度な医療行為が必要なために、病院で生活している子どもたちがいます。でも、医療的ケアを自宅で受けられる体制と、ご家族を支える環境さえ整えば、その子どもたちも、自分の家で、家族と暮らすことを選択できます。医療を必要とする人々が家で暮らすことを可能にするネットワークを北海道につくり、拡げていく。在宅医療の重要性をより多くの方に知ってもらいながら、多様な人々が一緒に暮らす社会づくりをすすめる。「応援」してくれる仲間を、北海道にどんどん増やす。それが、「YeLL」の活動の目的です。

内容

小児在宅医療に関する課題、背景：土地が広大であることによる小児等在宅医療システムの地域間格差がある

1. 事業を行うことで改善したい課題：居住地による小児等在宅医療支援における格差を少なくする
2. 事業名：北海道小児等在宅医療連携拠点事業 YeLL (いえる)
3. 事業目的：北海道全域を対象とした小児等在宅医療の後方支援体制の確立
4. 事業主体：医療法人稲生会
5. 対象者：北海道全域の小児等在宅医療患者、家族、支援者（医療・福祉・介護・教育・行政関係者）、一般の北海道民
6. 開催に必要な事業費用と調達した基金：地域医療介護総合確保基金を活用、2015年度は520万円、2016年度は未定
7. 事業時期：2015年11月～
8. 事業内容：①協議会の開催、②地域資源の情報収集と発信、③仲間となってくれる医療機関を増やす活動、④福祉・行政・教育関係者との連携、⑤患者・家族の相談窓口、⑥一般道民への啓蒙
9. 事業立案者：医療法人稲生会、北海道地域医療推進課、北海道障がい保健福祉課
10. 事業形式、講師、ファシリテーターはだれか：事業内容による
11. 誰が誰に、どの様な方法で事業を広報したか：(一般向け) 医療法人稲生会でホームページ開設、(行政機関向け) 北海道地域医療推進課
12. 実際の運営を誰がしたのか：医療法人稲生会
13. 予想される事業効果と判定方法：小児等在宅医療に関わる機関の増加、連携体制の強化、地域別レーダーチャートの作成
14. 事業を開催するうえでの問題点：研修会・情報交換会などの開催場所の選定
15. 本事業につながる次の事業：医療的ケア児に対する保健・医療・障害福祉・保育・教育等の連携体制の中心となる「小児等在宅医療支援センター」の開設
16. 小児在宅医療につながる地域ですでに行われている関連する他事業との連動性：他県の拠点との協働によるインターネットを通じた教育システムの構築



医療法人 稲生会

- 在宅人工呼吸器の導入および管理（訪問診療）
生涯医療クリニックさっぽろ
- 専門の看護師等がご自宅での療養生活を支援します
訪問看護ステーションくまさんの手
- 身体障害を抱える方々の生活全般を支援します
居宅介護事業所 くまさんの手
- 在宅医療を行っている障害児者の一時預かり
短期入所事業所 どんぐりの森

訪問診療：在宅人工呼吸器



生涯医療クリニックさっぽろ

在宅療養支援診療所(主に訪問診療)

職員：20名(うち非常勤2名)

小児科医：5名(常勤4、非常勤1)

※小児科専門医3(うち1名は小児神経専門医)

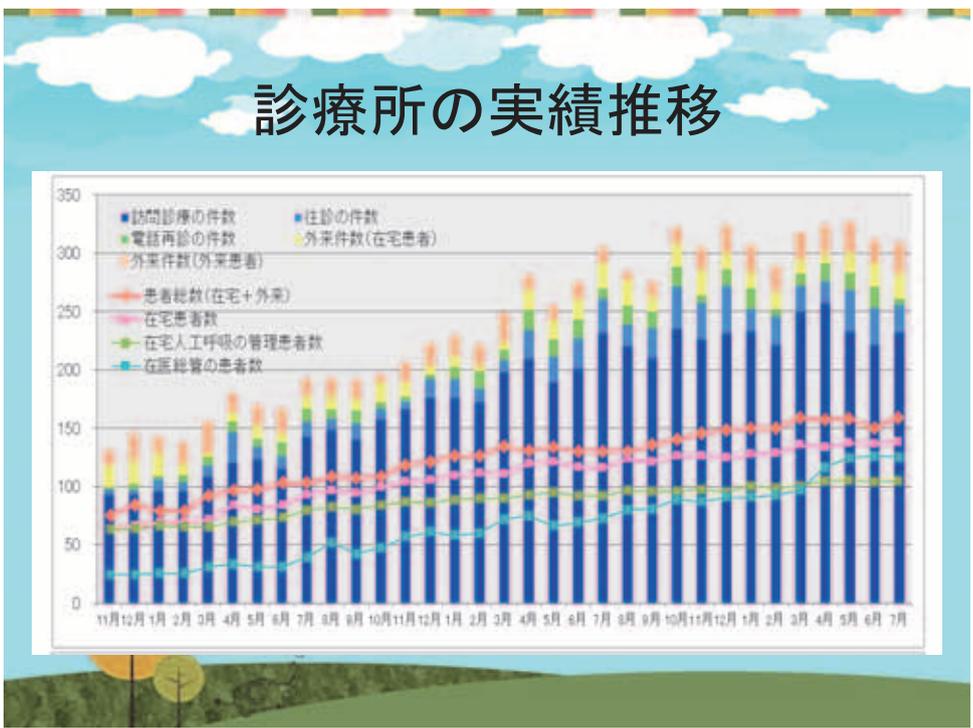
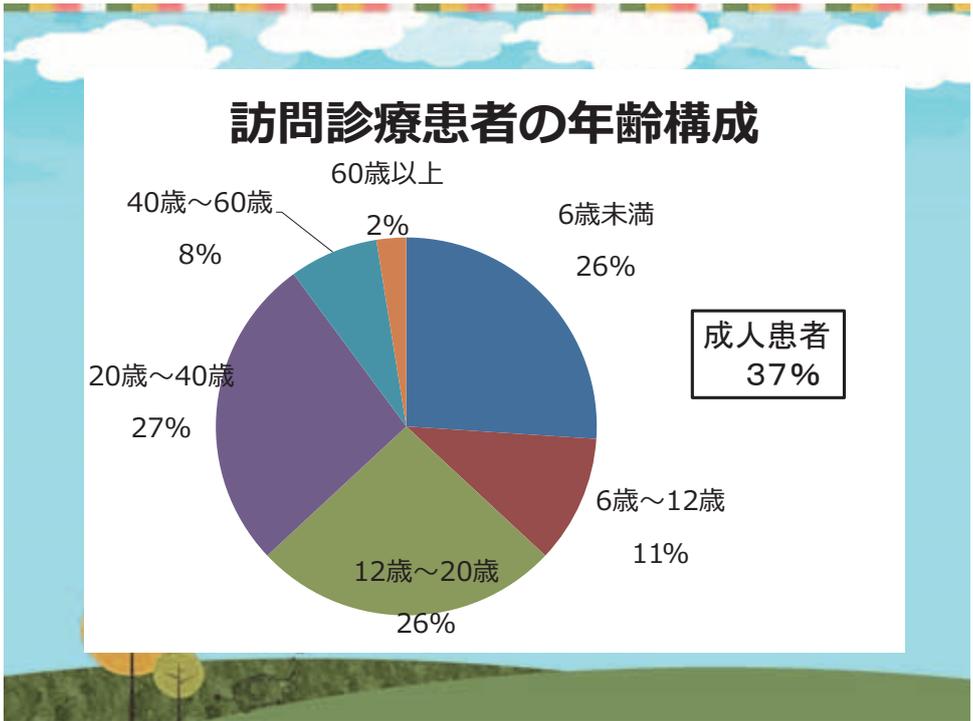
歯科医師(非常勤)：1名

看護師：2名 セラピスト3名(PT, OT, ST)

歯科衛生士：1名 管理栄養士：1名

アロマセラピスト(ケアラーのケア)：1名

社会福祉士(事務長)：1名 事務職：5名





医療型特定短期入所 どんぐりの森 「障害児の保育園」



訪問看護・居宅介護・短期入所の実績推移



障害児者の訪問歯科診療 2015年度～



- 非常勤歯科医師(週2日)
 - 北海道大学病院小児歯科 (社会人大学院生)
- 常勤歯科衛生士
 - 北大小児歯科(6年間)
- 「重度障害児者の在宅口腔ケアの確立」
 - 勇美財団助成研究(2015後期) 在宅人工呼吸器を使用する重症心身障害児者における細菌カウンをういた口腔内状況のモニタリング

私たちの理念

Dプロジェクト

A Project for Making a Better Society WITH Disabled People

困難を抱える人々とともに、より良き社会をつくる

3つのDと共に

Diversity
多様性

人は皆、「多様性」をもつ存在。
さまざまな違いをお互いに
認め合うことを尊重します。

Dialogue
対話する

お互いのことを知るために、
とことんまで話し合うことを
基本とします。

Design
デザイン:創造する

固定概念にとらわれない、
新たなアイデアを創造する
姿勢を大切にします。

稲生会では「困難を抱える人々とともに」
上記3つのDによるサイクルを回していくことで「より良き社会」をつくっていきます。

ぞうさんnet 家族交流会

2012



生涯学習活動 「手稲みらいづくり学校」



法人独自の取り組みから、北海道の公的事业へ

2. 北海道全域における後方支援

北海道 小児等在宅医療連携拠点事業

- 北海道が公募、医療法人稲生会が受託
- 地域医療介護総合確保基金
 - 平成27年度(12月～): 5,200 千円
- 担当課:保健福祉部
 - 地域医療推進局
 - 障がい者保健福祉課
- 北海道各地における意見交換会に同行

北海道ではどんなことをしている?

それぞれの地域の関係者とともに、その場所にあった解決策をみんなで考える。その工夫をみんなで実践する。それが「YeLL」のスタイルです。「YeLL」では、次の項目を中心に事業を進めています。

- 01 協議会「話し合いの場」の開催**
 北海道各地から医療・福祉・教育などの関係者が集まって協議会を開催し、「YeLL」の事業の方針を共有したり、地域ごとの課題の洗い出しやその対応策を検討します。
- 02 地域の医療の情報集めと発信**
 北海道各地、それぞれの医療・福祉・教育などの資源の情報を収集し、各地の病院で患者さんが入院される時などに活用していただけるように、このHP上で発信しています。
- 03 仲間と知ってくださる医療機関を増やす活動**
 北海道各地に出向いて、在宅医療・小児医療を担う医療機関や訪問看護ステーションなどに協力を呼びかけながら、NICUを有する専門医療機関を含めたネットワークを構築していきます。また、現場で活躍する医療者を支援するために、実地協議会などを開催していきます。

具体的にどんなことを行うの？

それぞれの地域の関係者とともに、その場所にあった解決策をみんなで考える。その答えをみんなで実践する。それが「YeLL」のスタイルです。「YeLL」では、次の項目を中心に事業を進めていきます。

04

**福祉・行政・教育関係者や
みなさんとの連携**

全国の各地の福祉・教育・市町村保健センター・相談支援専門員などを対象に研修会を開催し、子どもたちの在宅医療の重要性をより多くの方に知ってもらえるような活動を進めていきます。また、地域の関係者のみなさんの気になる子どもたちへの対応など、個別の相談に応じながら、連携体制づくりにつなげていきます。

05

患者さん・ご家族の相談窓口

患者さんやそのご家族から相談をお受けして、お住まいの地域で適切な医療・福祉サービスを受けられるように関係者のみなさんと共に調整していきます。また、関係機関のみなさんからの相談に対しても、「YeLL」のなかで最終的にいくつ知識や経験に基づいてアドバイスを提供していきます。

06

ご家族の支援、親類の連携支援

ご家族同士の仲間づくりのお手伝いや、ピアサポートの場の提供、おむくなりになった子どもたちのご家族のグリーンケアなど、ご家族や兄弟姉妹の子どもたちのご希望に応じた活動を行います。子どもたち向けの絵本やパンフレットの作成、シンポジウムの開催などを通じて、在宅医療の普及啓発に努めます。

小児等在宅医療推進協議会

2016.8.5～



- 道内3医育大学
- 小児病院
- 国立病院機構(神経筋疾患)
- 総合周産期センター6病院
- 北海道医師会、小児科医会
- 看護協会、在宅ケア事業団
- 重症心身障害児施設
- 特別支援学校長会
- 教育委員会
- 北海道庁
 - 地域医療課、障がい保健福祉課
- 札幌市役所
 - 医療政策課、障がい福祉課
- 事務局: 医療法人稲生会

札幌子ども在宅医療ガイドブック作成協議会 2016.7.28～



- 支援者のための手引き
- 札幌地域の総合病院(医師、看護師、MSW)
- 療育施設
- 相談室
- 自立支援協議会
- 札幌市
 - 障害保健福祉課
 - 母子保健課
- 保健所

T市役所主催 意見交換会



- 約60名が参加
 - 医療: 市内・圏域内の病院、診療所、訪問看護ステーション
 - 福祉: 福祉・介護施設、相談室
 - 行政: 市役所、保健所
- 課題を共有
- 新たなつながりの形成

遠隔地の患者宅を訪問



- 地域で診療を行っている医療機関に訪問し、事業の説明および情報交換を行う
- ⇒ 在宅医療への関与を依頼
- 地域での社会資源の利用状況を伺う
- ⇒ 利用している施設、あるいは可能性のある施設を訪問
- 地域の患者家族同士の交流を促す
- 新規事業立ち上げの相談も

地域の訪問診療医と共に患家を訪問



- 地域の訪問診療医を大都市部において後方支援する仕組み
- 定期的な呼吸機能評価、人工呼吸器設定調整を担当
- てんかん等の専門診療は大学病院に依頼
- 実際に会ってお願いすると受けてくださるケースも多い
- 患者・家族に支援体制を知ってもらうことで安心を

小児等在宅医療 地域別レーダーチャート

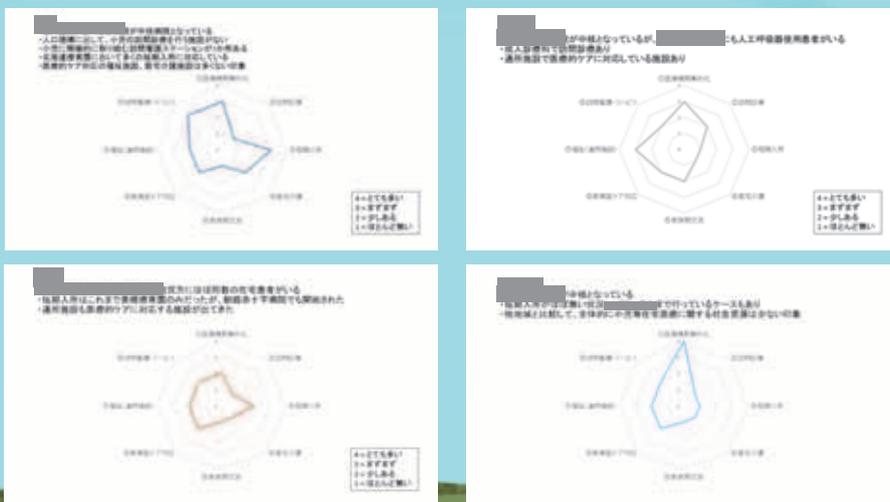
(例) 札幌地域:

- ・医療機関が多数あるため集約化が難しい
- ・訪問診療が普及している
- ・家族間交流の機会が多い



地域別レーダーチャート

地域によってかなりバラつきがある



全体的にポイントの高い地域においては「家族間交流」が豊富

⇒ 「家族間交流」を促進するようなアプローチをすることで社会資源が増加する？

札幌地域
 ・医療機関が多いため集約化が難しい
 ・訪問診療が普及している
 ・家族間交流の機会が多い



札幌地域は今年度から国立病院機構病院での運営が開始されている
 ・訪問診療は今年度から国立病院機構病院での運営が開始となった
 ・通所施設は他地域と比較して多い
 ・普通学校の特別支援学級において医療的ケアに対応
 ・家族間の交流が非常に豊富



札幌地域は今年度から国立病院機構病院での運営が開始されている
 ・訪問診療は今年度から国立病院機構病院での運営が開始となった
 ・通所施設は他地域と比較して多い
 ・普通学校の特別支援学級において医療的ケアに対応
 ・家族間の交流が非常に豊富



一般住民への啓蒙



ハピママフェスタにブース出展

難病に関する映画上映会



患者さんの描いた絵をペットボトルキャップアートで



北海道全域、日本全国における人材育成へ

3. 研修の具体例



呼吸ケア研修会

- 呼吸ケアの基礎、徒手呼吸介助法、呼吸機能評価および補助デバイスの使用方法についての研修
- 実際に測定機器やデバイスを触ってみる
- すべての職種、希望者が対象(学校関係者の受講も多い)
- 全道対象(札幌開催):2回
 - 各30名
- 地域(十勝):2回
 - 各40~60名

訪問看護ステーション向け研修会

日付	名称	参加人数	会場
3/18	【第2回退院サポート委員会学習会】 テーマ:訪問看護小児在宅支援	47名	北海道立子ども総合医療・療育センター(コトモックル)
6/10	【北海道民医連訪問看護管理者研修会】 テーマ:小児の訪問看護について	20名	北海道民医連会館
8/26 -27	【第21回日本難病看護学会学術集会(交流集会)】 テーマ:難病をもつ子供の在宅療育の「今」と「これから」	30名	北海道医療大学(当別キャンパス)
9/10	【北海道民医連訪問看護現任者研修会】 テーマ:小児の訪問看護について	40名	札幌駅カンファレンスセンター
9/24	【西いぶり訪問看護者連絡会】 テーマ:小児の看護	25名	胆振地方男女平等参画センター
10/18	【札幌訪問看護ステーション協議会 札幌市自立支援協議会 共催研修】 テーマ:小児等訪問看護の現状	200名(予定)	札幌市役所

インターネットを活かした研修の構想



- 広い北海道では、その地域で研修を開催しても希望者全員が来ることはできない
- ↓
- 連携拠点事業ホームページ内に動画アーカイブを作成
- 各地で開催する研修などの動画を公開していく
- 今後、全国の小児在宅医療連携拠点と協働してアーカイブを充実させることも検討

全国各地からの研修受け入れ(OJT含む)

- 研修受け入れ
 - 2009～2011年(3年間): **千葉**より卒後7年目医師
⇒ 2012年～ 当院常勤医師に
 - 2015～2016年(2年間): **大学病院**より卒後9年目医師
 - 2015年10月(1か月): **帯広市**より理学療法士
 - 2017年～ 3年間(予定): **沖縄**より卒後7年目医師
⇒ 将来、沖縄で小児の訪問診療所を開設予定
 - その他、1日～2か月でOJ実績多数
- 研修内容
 - 1～5日: 見学、訪問同行
 - 1～3か月: 訪問診療、NPPV導入の実践
 - 1～2年: 在宅移行、在宅管理、在宅看取り
 - 3年目: 開業、経営、広域連携システムの構築